

2020年9月16日

六月に陸前高田から届いた突然の励ましカードのプレゼントには、本当に驚かされました。本校のお子さんたちの状況に心を寄せていただいたことは、心のつながりの表れです。まさに、立教が大切にしている「共に生きる」スピリットが体現された出来事でした。十四日の月曜朝礼では、次のような話をしました。



勤めていた女性です。この遠藤未希さんの声は「天使の声」と呼ばれるようになりました。声がきれいだとか、歌が上手だという意味ではありません。たくさんの方の命を救った声だったからです。大地震があつた後、津波が来ることを知らされ、すぐ目の前の海の様子がおかしいことに気づいた遠藤さんたちは、町の人たちへの放送を始めました。「大津波警報が発令されました。町民の皆さんは早く、早く高台に避難してください。」「異常な潮の引き方です。逃げてください。」と防災無線のスピーカーからは遠藤さんのはつきりとした声が聞こえました。

その後も「高台に避難してください。」「大きい津波が来ています。早く、早く、早く高台に避難してください。」何度も何度も繰り返された遠藤さんの放送は、およそ三十分間も続いたそうです。

六月に陸前高田市立高田東中学校のお姉さん、お兄さんたちから、新型コロナウイルスの感染予防のために、学校にいけない、今までのように友だちと遊べない皆さんに、頑張ってくださいとカードを送ってきてくださった話をしました。全部のカードは今、職員室の壁に貼られています。

東日本大震災、陸前高田をはじめ多くの町が、地震と津波で大きな被害を受けたその大地震が起こったのは二〇一一年三月十一日でした。立教小学校ではこの日のことを忘れずに、被害を受けて困っている人の役に立たせていただく、と毎日祈り続けています。そして、毎月、地震の起こった十一日に近い月曜朝礼では、この大地震について、大地震で被害を受けた人々、学校や町の現在の様子などについて話してきました。

今日は、私から一人のお姉さんの話をします。その人の名前は、遠藤未希さんといいます。陸前高田とも近い宮城県南三陸という町の、町役場に

ように、この大地震と大津波では、命を守り、命を助けるために、できることを精一杯行つた人がたくさんいたことでしょう。深い悲しみの中にある人に心を寄せ、助け、励ます人がたくさんいたことでしょう。

その中に、立教小学校の皆さんもいるのです。皆さんは、今日もチャプレンの小林先生の言葉に心を合わせて「困っている人たちのために少しでもよい働きができますように」と祈りました。クリスマスカードを作つて送り、イエスさまの誕生を一緒に祝いしましょうと伝えながら、ぼくたちは決して皆さんのことを忘れません、というメッセージを毎年届けています。

津波が来ています。早く、早く、早く高台に避難してください。」何度でも何度も繰り返された遠藤さんの放送は、およそ三十分間も続いたそうです。その命がけの声を聴いた町の人たちは、急いで高台に向かつて避難を始めました。こうして、遠藤さんの放送の声が数千人という町の人たちの命を救ったのです。目の前の海の様子を見ながら、恐ろしさと闘いながらも、マイクを両手で握りしめ、町の人たちのために自分の役割をはたそうと放送を続けた遠藤未希さん。思っていた以上の高さで迫ってきた津波の速さは、マイクを置いて避難しようとする部屋を出た遠藤さんよりも速かったようです。

使の声」と言つてくださるでしょう。皆さんの献金や、手作りのクリスマスカードを「よい働きです。」と喜んでくださっている、と私は信じています。



本校には復興支援本部という分掌があり活動しています。支援している現地に赴くこともあり、その報告なども含め、大震災に関する話をお子さんたちに月に一度、月曜朝礼の際にしています。「互いに愛し合いなさい。」というイエスさまの愛の教えに応える大切な機会です。

遠藤さんが亡くなったことを知った町の人たちは、「あの時の女性の声で無我夢中で高台に逃げました。」「あの放送で、たくさんの方が助かった。」と遠藤さんに感謝したそうです。遠藤未希さんの